

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、活動方法を見直すなどして取り組んでいる事例をご紹介します！

ふれあいっこ三ツ沢

「ふれあいっこ三ツ沢」は、平成29年9月にオープンした「こども食堂」を運営するボランティアグループです。「地域のこどもたちを笑顔にしたい」という思いから、まずは「こどもたちに皆で食べる楽しさを感じてもらいたい」と数人のスタッフで始めました。皆でワイワイ話しながら食事をすることで苦手な野菜が食べられるようになったり、参加した親から日頃の悩みを聞くこともあります。参加者にとって、楽しくほっとできる場づくりを心掛けています。

コロナの影響で今までどおりの開催が難しい中で、小中学生がいる世帯等に食品などを配布する「フードパントリー（食品頒布会）」や、食事以外でできることを考え「学習支援」を始めています。

コロナの中でもできることを考え、形にすることで、こどもたちから笑顔を貰い、それがスタッフの活力にもなっています。



あおぞら盆踊り体操

『あおぞら盆踊り体操』は、屋外でラジオ体操と盆踊りをする取組で、菅田地区にある公園で毎月1回行われています。

コロナの影響により、サロンなどの地域活動が休止する中で、体力維持やフレイル予防の観点から菅田地域ケアプラザと区役所が共催で行っています。令和3年2月から始まった取組も今では口コミで噂が広がり、多い時には33名（この日は菅田の丘小学校の4年生も参加し、70名を超える参加者でした）が参加しています。

参加者からは、「集まれる場があるのは非常に嬉しい」「友人に誘われて参加し、久しぶりに身体を動かした」など喜びの声が聞かれています。現在は、菅田みどりの丘公園で実施されていますが、他の公園などに広がるのが期待されています。



他の活動紹介は
こちら

1人の100歩より 100人の1歩

